キャラクター名
鳩野 英佑(はとの えいすけ)

プレイヤー名

シンドローム	エグザイル キュマイラ	ワークス	UGNチルドレンA	カヴァー	小学生
オプショナル		年齢	11	性別	男
覚醒	忘却	衝動	恐怖	初期侵食率	34 %
出自	安定した家庭	経験	実験体	邂逅	友情（依存）：アララト

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	5	1	0			6
感覚	1	0	0			1
精神	0	0	1			1
社会	2	0	0			2

HP	33
行動値	3
(非装備時)	3
戦闘移動	8
全力移動	16

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	4		射撃			ＲＣ	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達		
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：天文学	4		情報：		
運転：			芸術：			知識：ヒーロー	1		情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
骨の剣	白兵	6r+3	6	Lv+5		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
夕焼けのクレヨン画	

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
対抗種<カウンターレネゲイド>	P	N		
父ちゃん	P父ちゃんみたいになりたい！	N父ちゃんみたいになれない		
ヒーロー	P 憧憬	N 劣等感		
地球の皆	P 庇護	N 隔絶		
サポートAI：アララト	P 信頼	N 不要		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
C：エグザイル	2	2	ﾒｼﾞｬｰ	-	-	-	-	
効果：	C値-Lv(下限7)							
ターゲットロック	3	3	ｾｯﾄ	至近	自身	自動	-	
効果：	攻撃力+[Lv×3]/対象以外のｷｬﾗを選択して攻撃の場合効果が付与されない							
攻性変色	3	3	ｾｯﾄ	至近	自身	自動	ﾘﾐｯﾄ	
効果：	攻撃力+[Lv×5]/ﾊﾞｽﾃ暴走を受ける/ターゲットロックと併用							
フルパワーアタック	3	4	ｾｯﾄ	至近	自身	自動	80↑	
効果：	白兵攻撃力+[Lv×5]/R中行動値0に							
完全獣化	3	6	ﾏｲﾅｰ	至近	自身	自動	-	
効果：	ｼｰﾝ中【肉体】D+[Lv+2]/＜完全獣化＞中ｱｲﾃﾑ所持・装備不可							
骨の剣	5	3	ﾏｲﾅｰ	至近	自身	自動	-	
効果：	素手ﾃﾞｰﾀ変更							
爪剣	5	3	ﾏｲﾅｰ	至近	自身	自動	-	
効果：	白兵攻撃力+[Lv×2]/ﾄﾞｯｼﾞD-1個							
伸縮腕	3	2	ﾒｼﾞｬｰ	視界	-	対決	-	
効果：	白兵攻撃の射程を視界に/判定D-[Lv-3]個							
獣の直感	1							
効果：								
擬態の仮面	1							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

一人称：おれ
二人称：大体呼び捨て

いつも元気でヒーローを目指してる男の子！
困っている人を守りたいからヒーローになった！
父ちゃんもヒーローだったんだよすっげーよな！
みんなの住むところがなくなっちゃうのは困るもん、おれが新しい星を見つけてくるよ！な、アララト！

****

ヒーローでありたいと願う少年。
父親はUGN職員であり、ヒーロー番組などを好みUGNでもヒーローであろうとしていた。
英佑もその背中を見て育ったため、そのころはUGNなんて知らなかった彼だが父親の「困っている人を助けている仕事」にあこがれを持つようになる。
父親と英佑の父子家庭で仲睦まじく過ごしていた。

覚醒のきっかけは5年前に市内で起こったパンデミック。終焉を迎える世界に嫌気がさしたのだろうか。α-トランスをばら撒かれ、市内にいた一般人の多くが死傷・ジャーム化した。その中での生存者が彼である。
その後父親をはじめとしたUGN職員によって保護されるとき、暴走状態にあった彼は周囲を殺害。第二班として送られたUGN戦闘班によって保護。本来ならば処分となるものの、希少なDロイス:対抗種の持ち主であったがために保護・実験下に置かれる。

なお、英佑本人はあの日に何があったのか・何をしたのかも覚えていない。